

令和8年度 第2回 明海中学校・明海南小学校 学校地域連携運営協議会（概要）

1. 日時 令和8年6月20日（土） 9：30～11：30

2. 会場 浦安市立明海南小学校会議室

3. 参加者 明海南小学校委員…8名

4. 会議の概要

（1）校長挨拶

（2）学習参観

（3）協議

①小中同一校における学校運営について（参観した様子から）

◎授業のICT化と教育のあり方

- ・電子黒板やタブレット端末の導入により、先端技術が教育現場で標準化されている様子を実感した。
- ・一方で、少人数での話し合いなど、デジタル機器に頼らないアナログな対話も大切にされており、バランスの取れた授業展開がなされている。
- ・今後は、こうしたデジタルとアナログの良さを融合させつつ、これまでの優れた教育手法をどのように継承していくかが重要になると考える。
- ・また、デジタル機器を活用した学習は、将来の高等教育へつながる重要な礎になると確信した。

◎学習環境と児童の様子

- ・どのクラスも掲示物が工夫されており、学習環境が非常に整っていた。
- ・中学校との併設校舎という環境上、多少のにぎやかさはあるものの、小中学生ともに学習に集中できている点は素晴らしい。
- ・特に印象的だった点は以下の通り。

主体性の向上

チャイムが鳴らない時間帯が多い環境を活かし、子どもたちが自ら時間を確認して行動できるようになっている。

意欲的な姿勢

1年生の国語では、音読や他者の発表を聞く姿勢に意欲が見られた。

指導の工夫

6年生の体育では、担任が簡潔な指示を心がけることで、児童が理解しやすくする工夫が見られた。

多様な表情

学校での様子と児童育成クラブでの様子を比較し、児童の多面的な成長を確認できた。特に、一部の児童において自主性が育っている様子が頼もしい。

◎今後の課題と考察

教員の負担軽減

単学級の学年が多く、教員の負担が大きくなりやすい状況が見受けられる。組織的なサポート体制の検討が必要。

主体的な学びの深化

教材研究の高さは十分に感じられたが、「教えられる学習」から「子どもたちが主体となって創る授業」への転換が求められる。

生成A I との向き合い方

生成A I が情報のデフォルトになりつつある現代において、教育現場での活用は避けて通れない課題である。現状では「調べ学習の初手として利用しない」との指導が行われているとのことだが、A I リテラシーをどのように育んでいくか、今後さらに議論を深める必要があると感じる。

②県立特別支援学校設置に関する進捗状況について

- ・県立特別支援学校設置に向けた工事の進捗状況について説明
- ・県教委が行っている開校に向けた取組について説明

③その他

- ・学校地域連携運営協議会委員向けの研修の案内
- ・学校地域連携運営協議会委員に係る確認書提出のお願い

(4) 今後の予定の確認

第3回 11月上旬 午後（明海中、明海小と合同開催を検討中）

※日程の変更の可能性あり

第4回 （小学校）2月25日（木）（6年生を送る会参観を含む）

（中学校）2月26日（金）（3年生を送る会参観を含む）